

街とアートが互いの可能性を引き出す“アーツ前橋”開館 10 周年記念展 開催決定

# New Horizon — 歴史から未来へ

2023 年 10 月 14 日 [土] → 2024 年 2 月 12 日 [月・祝]



WOW 《Viewpoints》2022

## WOW、蜷川実花、藤田貴大ら前橋市の中心市街地で作品を発表するアーティスト（第一弾）を発表

群馬県前橋市の公立美術館「アーツ前橋」は、前橋市中心市街地の商業施設を改修した美術館として、2013 年 10 月にオープンし、今年で 10 周年を迎えます。開館以来、「創造的であること creative」、「みんなで共有すること share」、「対話的であること dialogues」の 3 つをコンセプトに、市民とアーティストによる文化芸術活動の拠点として、多彩な展覧会や地域アートプロジェクトを開催してきました。また、街なかに立地していることから、アートによる賑わいの創出や、空洞化が進む中心市街地の活性化への役割も期待されてきました。

本展「New Horizon - 歴史から未来へ」は、これまで市民と共に歩んできたアーツ前橋の文化芸術活動を土台に、街とミュージアムの“次の 10 年”に向けた新たな協働をひらくアート展です。アーツ前橋をメイン会場に、今年 5 月に誕生した「まえばしギャラリー」などの最新アートのスポットや、昔ながらのアーケード商店街、前橋の歩みを今に伝える歴史的建造物に、国内外から前橋に集結する 31 組のアーティストが作品を展示いたします。

## 特別館長・南條史生が自らキュレーションする展覧会。開催テーマは「New Horizon」

私はアーツ前橋を展示や収集活動だけでなく、街づくりや地域産業の発展にも貢献する、市民生活と共にある美術館にしたいと考えています。目指すのは前橋市民が誇りをもてる、街のシンボルとなる美術館です。そこで私たちアーツ前橋は“次の 10 年”への幕開けとして、街とアートが共に発展していくビジョンを表す展覧会「New Horizon - 歴史から未来へ」を、開館 10 周年記念事業として開催します。

本展では国際的に活躍するアーティストを前橋に招聘し、彼らのアート活動を美術館から街なかへと拡げていきます。ローカルとグローバルが混ざり合い、伝統と現在が交差するなかから、新しい地域文化をここ前橋から創造・発信していきます。これらの活動は、前橋が掲げるまちづくりビジョン「めぶく。」に基づく周辺地域の再開発と連携することで、街とアートが互いの可能性を引き出していく取り組みになるでしょう。

南條史生（前橋市文化芸術戦略顧問・アーツ前橋特別館長）

全アーティストとプログラムの詳細は、リリース第二弾（8 月下旬）にてご案内いたします

●展覧会に関するお問い合わせ New Horizon 展（事務局・アーツ前橋）

学芸担当 高橋/庭山

●取材・掲載に関するお問い合わせ

TEL:027-230-1144

PR 担当 酒井/石井

E-mail: <https://www.artsmaebashi.jp/>

●広報画像はこちらよりダウンロードください

<https://www.artsmaebashi.jp/?cat=28>

アーツ前橋 10 周年記念展「New Horizon - 歴史から未来へ」は、空き物件を活用した没入型デジタルアートや、歴史建築の魅力を引き出すプロジェクションマッピング、地域住民とアーティストの共同制作など、前橋市中心市街地で多彩なアートプロジェクトを展開。街あるきと一体となったアート体験を提供します。

## 01-前橋の街なかに作品を設置し“アートのある街”を実現

アメリカの作家アンドリュー・ピンクリーが商店街にハワイの岩を出現させる《Stone Cloud》や、かつて繁華街のランドマークだった空きビルを極彩色のインスタレーションで蘇らせる蜷川実花、前衛書家のハシグチリントロウによる“詩の街—前橋”とのコラボレーションなど、前橋の時間・空間・文化との対話から生まれた作品を、街の様々な場所に展示します。



アンドリュー・ピンクリー 《Stone Cloud》



蜷川実花の作品



ハシグチリントロウ 《even destruction》

©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

## 02-デジタル技術を駆使した“体感するアート”を前橋の各所で展開

前橋市はデジタルの力を活用した街づくり「デジタルグリーンシティ」を推進しています。そこで本展では、デジタルツールを活用し越境的に活動するトップクリエイターを国内外から招聘。ビジュアルデザインスタジオ WOW による没入型インスタレーションや、光の演出家・石多未知行が仕掛ける群馬県庁昭和庁舎でのプロジェクションマッピングなど、街×デジタルアートで賑わいを創出します。



WOW 《Viewpoints》



《1minute Projection Mapping Competition 2022》



木原共 《Future Collider》

## 03-アーティストと子どもたちが”街の未来“をともに考え・とものつくるプログラム

「New Horizon - 歴史から未来へ」展では、未来の街づくりを担う若者や子どもたちに創造的な学びの機会をひらきます。前橋生まれの演劇作家・藤田貴大が主宰する劇団「マームとジブシー」、欧州で注目される新鋭のメディアアーティスト・木原共、ガムテープと新聞紙によるユニークな彫刻活動で知られる関口光太郎らが、前橋の街を舞台に地域の子もたち対象の共同制作やワークショップを開講します。



マームとジブシー 《Light house》



木原共 + Playfool 《Deviation Game》



関口光太郎 《大人魚姫の城》

撮影：岡本尚文

撮影：Aya Kawachi

## 04-美術館内の展示は、現代アートの巨匠と国内の気鋭による共演

アーツ前橋での展示は、街なかの祝祭的な展観とは対比的に、現代アートの巨匠たちを中心に 16 組のアーティストの作品で「世界の見方」を示唆する企画展を開催。詳細は 8 月下旬に公開しますが約 2 万個の精緻な金属彫刻からなるザドック・ベン・デイビッドの《People I Saw But Never Met》や、前橋市の蚕糸技術センターで飼育された“光るシルク”を使ったスブツニ子！の《Tranceflora》の展覧が決定しました。



ザドック・ベン＝デイヴィッド 《People I Saw But Never Met》



スブツニ子！ 《Tranceflora》 撮影：So Morimoto

## 05-アーツ前橋周辺でオープンが続くスター・アーキテクトの建築群も見どころのひとつ

アーツ前橋の周辺では、前橋のまちづくりビジョン「めぶく。」に基づき、「白井屋ホテル」や「まえばしギャラリー」など、新進気鋭の建築家による施設のオープンが続いており、本展会期中もいくつかの建築が完成予定となっています。本展では彼らスター・アーキテクトによる建築表現にも着目し、アートを身近に感じさせてくれるその空間の魅力を、街歩きツアーや各施設との連携展示で紹介していきます。



藤本壮介設計の《白井屋ホテル》(撮影：木暮伸也)



平田晃久設計の《まえばしギャラリー》



403architecture [dajiba]による前橋リサーチ展

### 前橋市をアートのあふれる街へ！

ふるさと納税のガバメントクラウドファンディングで、  
「New Horizon」展へのご寄附をお願いいたします。

本展開催にあたり、アーツ前橋でははじめて「ふるさとチョイス」のクラウドファンディングに挑戦し、「アートのあふれる街・前橋」を皆様と一緒に作っていきたくと考えています。

トップクリエイターの作品を地域の皆さまに届けることはもちろん、前橋以外の都市でも参照できる「アートによる地域再生」の事例にすべく、美術館スタッフ一同、使命感をもって取り組んで参ります。最先端のアートで街を彩る“アーツ前橋”開館 10 周年記念展「New Horizon - 歴史から未来へ」へのあたたかいご支援を、何卒よろしくお願いいたします。

●詳細は右記の QR コードよりご覧ください →



関口光太郎 《SUN TOWER2020 / MAQUETTE》



### ザドック・ベン＝デイヴィッド／Zadok Ben-David [アーティスト]

1949年イエメン生まれ、同年イスラエルに移住。ロンドンのセント・マーチンズ美術学校で上級彫刻科を卒業し、現在はロンドンとポルトガルを拠点に活動。彫刻、インスタレーション、パブリック・アート作品で知られるベン＝デイヴィッドは、人間の本质と進化に関連するテーマを探求している。彼の作品は詩的で幻想的と称され、繊細なミニチュアと巨大なインスタレーションの間で揺れ動く。1988年にイスラエル代表として「ヴェネチア・ビエンナーレ」に参加したほか、ポルトガル（2022年）、オランダ（2020年）、ロシア（2019年）、韓国（2010年）、オーストリア（2009年）、シンガポール（2008年）、オランダ（2007年）など、世界各地のビエンナーレに参加している。「ポルトガル国際ビエンナーレ」（2007年）でのグランデ・ビエンナーレ・プレミオ賞、テルアビブ美術館彫刻賞（2005年）など、数々の賞を受賞。（ポートレート撮影：Celine Avrahami）



### 蜷川実花／Mika Ninagawa [写真家、映画監督]

写真を中心として、映画、映像、空間インスタレーションも多く手掛ける。木村伊兵衛写真賞ほか数々受賞。2010年Rizzoli N.Y.から写真集を出版。『ヘルタースケルター』（2012）、『Diner ダイナー』（2019）はじめ長編映画を5作、Netflixオリジナルドラマ『FOLLOWERS』を監督。最新写真集に『花、瞬く光』。クリエイティブチーム「EiM:Eternity in a Moment」の一員としても活動している。

# WOW

### WOW／ワウ [ビジュアルデザインスタジオ]

東京、仙台、ロンドン、サンフランシスコに拠点を置くビジュアルデザインスタジオ。CMやコンセプト映像など、広告における多様な映像表現から、さまざまな空間におけるインスタレーション映像演出、メーカーと共同で開発するユーザーインターフェイスデザインまで、既存のメディアやカテゴリーにとらわれない、幅広いデザインワークをおこなう。



### 藤田貴大／Takahiro Fujita [演劇作家]

マームとジプシー主宰。1985年4月前橋市生まれ。北海道伊達市出身。桜美林大学文学部総合文化学科にて演劇を専攻。07年マームとジプシーを旗揚げ。以降全作品の作・演出を担当する。作品を象徴するシーンを幾度も繰り返す“リフレイン”の手法で注目を集める。11年6月-8月にかけて発表した三連作《かえりの合図、まったた食卓、そこ、きつと、しおふる世界。》で第56回岸田國士戯曲賞を26歳で受賞。以降、様々な分野の作家との共作を積極的に行うと同時に、演劇経験を問わず様々な年代との創作にも意欲的に取り組む。13年、15年に太平洋戦争末期の沖繩戦に動員された少女たちに着想を得て創作された今日マチ子の漫画『cocoon』を舞台化。同作で2016年第23回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。演劇作品以外でもエッセイや小説、共作漫画の発表など活動は多岐に渡る。（ポートレート撮影：井上佐由紀）



### スプツニ子！／SPUTNIKO! [アーティスト]

英国ロンドン大学インペリアル・カレッジ数学科および情報工学科を卒業後、英国王立芸術学院（RCA）デザイン・インタラクションズ専攻修士課程を修了。RCA在学中より、テクノロジーによって変化していく人間の在り方や社会を反映させた映像インスタレーション作品を制作。2013年よりマサチューセッツ工科大学（MIT）メディアラボ 助教授に就任し Design Fiction Group を率いた。2017年世界経済フォーラム「ヤンググローバルリーダー」、2019年TEDフェローに選出。2018年に東北新社フェロー、2022年株式会社デジタルガレージ社外取締役役に就任。東京藝術大学デザイン科准教授。株式会社Cradle CEO。



### アンドリュー・ピンクリー／Andrew Binkley [アーティスト]

アンドリュー・ピンクリーは他領域にまたがるアーティストである。タイの森の伝統的な仏教の僧侶として数年間を過ごした後、現在はハワイのホノルルを拠点に活動している。修道生活を離れた後は、「六本木アートナイト 2019」（東京）、「ダウントウン・フィルム・フェスティバル」（ロサンゼルス）、「クイーンズ美術館」（ニューヨーク）、「高雄美術館」（台湾）、「ホノルル・ビエンナーレ」（ハワイ）など国際的な展覧会に出展している。また、坂本龍一＋クリストファー・ウィリッツのアルバム・ジャケット・アート（ゴーストリー・インターナショナル）など、数多くのコラボレーションも手がけている。ピンクリーは、イギリスの古城、ポーランドの第二次世界大戦時の防空壕、ホノルル美術館のひび割れた敷地、ジョシュア・ツリー国立公園のハイデザート山の、4Culture+ビル&メリンダ・ゲイツ財団とのシアトルのストリートなど、幅広い場所でサイトスペシフィックな作品を展示している。



**石多未知行／Michiyuki Ishita** [クリエイティブディレクター、メディアアーティスト、空間演出家]

1974 年生まれ。武蔵野美術大学空間演出学科卒業。映像を光として捉え空間演出をするアーティストとして国内外で活動。2011 年にプロジェクションマッピング協会を設立し、世界最大級の国際大会のプロデュースや普及啓発活動を行う。また東京発の光の祭典「TOKYO LIGHTS」の立ち上げ、波を青く光らせる《NIGHT WAVE》など、注目のプロジェクトを多数手掛ける。



**木原共／Tomo Kihara** [メディアアーティスト]

新たな問いを人々から引き出す遊びをテーマに、実験的なゲームやインスタレーションの開発を行う。慶應義塾大学環境情報学部卒業後、オランダのデルフト工科大学院のインタラクティブデザイン科を修了。その後、アムステルダムに拠点を置く研究機関 Waag Futurelab に参加。近年の作品は「アルス・エレクトロニカ STARTS PRIZE」(リンツ／2021 年)にノミネートされ、「Victoria & Albert Museum」(ロンドン／2022 年)にも展示されている。(ポートレート撮影：Anna Trap)



**ハシグチリントロウ／Lintalow Hashiguchi** [書家、WLIGHTER]

1985 年長崎県生まれ。2004 年福岡教育大学書道課程に入学。10 代の頃 PUNK に出会い、創作活動の原点となる。伝統的な書を学ぶも、戦後の様々な前衛芸術運動、特に井上有一の「書は万人の芸術」という考えに触発され「日常を生きる為のエネルギー」として書を展開。日々生活の中で閃くインスピレーションを断片的な言葉をノートに書き付けている。制作は、高価な毛筆代わりにタオルを用い、パンクロックを聞きながら一気に書き上げる。2015 年に井上有一の顕彰展「天作会」メンバーに抜擢。2018 年「ART SHODO TOKYO」に選出、注目される。アートフェア東京 2019 出展、「LUMINE meets ART AWARD 2018-2019」グランプリ受賞、シェル美術賞 2019 入選。ARTISTS' FAIR KYOTO 2020 へ選出。2023 年渋谷パルコにて個展開催「so many life, so many death」書籍出版。(ポートレート撮影：永田峻)



**403architecture [dajiba]／ヨンマルサン・アーキテクチャー・ダジバ** [建築コレクティブ]

2011 年に彌田徹(やだ・とおる)、辻琢磨(つじ・たくま)、橋本建史(はしもと・たけし)によって静岡県浜松市で設立。主な展覧会に、金沢 21 世紀美術館「3.11 以後の建築」(2011 年)、第 15 回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展「en[縁]:アート・オブ・ネクサス」(2016 年)、「あいちトリエンナーレ 2016」(2016 年)、スイス建築博物館「MAKE DO WITH NOW」(2022 年)など。



**関口光太郎／Kotaro Sekiguchi** [新聞紙×ガムテープアーティスト]

1983 年群馬県前橋市生まれ。小学 3 年生の夏休みに、初めて新聞紙とガムテープを使ってステゴサウルスを作る。多摩美術大学彫刻科の卒業制作で 6 メートルの寺院を制作し、技法を確立。第 15 回岡本太郎現代芸術賞受賞(2012 年)、「In BEPPU」(2019 年)招聘。現在まで、旭出学園(特別支援学校)勤務の傍ら、全国各地で制作・展示やワークショップを行う。(ポートレート撮影：森英嗣)

**全アーティストとプログラムの詳細は、リリース第二弾(8月下旬)にてご案内いたします**

●展覧会に関するお問い合わせ New Horizon 展(事務局・アーツ前橋)  
学芸担当 高橋/庭山  
●取材・掲載に関するお問い合わせ  
PR担当 酒井/石井

TEL:027-230-1144  
E-mail: <https://www.artsmaebashi.jp/>

●広報画像はこちらよりダウンロードください  
<https://www.artsmaebashi.jp/?cat=28>

# 広報用画像

【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】



【11】



【12】



【13】



【14】



# New Horizon — 歴史から未来へ

## 広報用画像申込書

### 記事掲載についてのお願い

- ・掲載にあたっては、展覧会名と会期を表記してください。
- ・画像等を掲載する場合は、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- ・掲載記事やVTRは、資料として保管いたしますのでアーツ前橋までご送付ください。
- ・取材及び収録等の際は、必ず事前にお問い合わせください。

アーツ前橋 PR担当 宛 FAX 027-232-2016

ご希望の画像の番号に○をつけてください。画像(JPEG)をメールにてお送りいたします。

\*画像の使用は本展覧会の広報を目的とする場合に限り、個人のブログ等への掲載や鑑賞等を目的とする場合には提供できません。

\*掲載にあたっては、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。

番号	キャプション・クレジット等
【1】	WOW 《Viewpoints》 2022
【2】	アンドリュー・ビンクリー 《Stone Cloud》
【3】	蜷川実花の作品 ©mika ninagawa, Courtesy of Tomio Koyama Gallery
【4】	マームとジブシー 《Light house》
【5】	ザドック・ベン＝デイヴィッド 《People I Saw But Never Met》
【6】	スツツニ子! 《Tranceflora》 撮影: So Morimoto
【7】	関口光太郎 《SUN TOWER2020/MAQUETTE》
【8】	WOW 《Viewpoints》
【9】	木原共 《Future Collider》
【10】	ザドック・ベン＝デイヴィッド/Zadok Ben-David [アーティスト]
【11】	蜷川実花/Mika Ninagawa [写真家、映画監督]
【12】	藤田貴大/Takahiro Fujita [演劇作家]
【13】	関口光太郎/Kotaro Sekiguchi [新聞紙×ガムテープアーティスト]
【14】	ハシグチリントロウ/Lintalow Hashiguchi [書家、WLIGHTER]

### 媒体情報 \*できるだけ詳しくご記入ください。

媒体名:	
発行日:	発行元:
貴社名:	
部署名:	担当名:
所在地: 〒	
TEL:	FAX:
E-MAIL:	

●展覧会に関するお問い合わせ New Horizon 展 (事務局・アーツ前橋)

学芸担当 高橋/庭山

●取材・掲載に関するお問い合わせ

TEL:027-230-1144

PR担当 酒井/石井

E-mail: <https://www.artsmaebashi.jp/>

●広報画像はこちらよりダウンロードください

<https://www.artsmaebashi.jp/?cat=28>